

園名 奈良学園幼稚園

はばたくなら⑥

子どもたちの心と身体を育もう～健やかな成長を願って～

4歳児 4月～10月

取組について

○進級当初、子どもの思いや表現の仕方は様々であった。その子どもなりの方法で表現している姿を受け止めていくことに重点を置き、保育者や友達と安心感をもてる関係作りができるように心がけて過ごしている。

クラスの実態としては、いろいろな事に興味は示すが興味が点々としてしまう。また、一つの事に集中することができにくい・すぐに諦めてしまう・姿勢が崩れてしまうなどいくつかの課題が見えてきた。

○本園では「うきうきタイム」として全園児で身体を動かす活動を取り入れている。更に、クラス(ひまわり組)独自の活動として「ひまわりチャレンジタイム」を設け、いろいろな身体を動かす活動を毎日の保育の中に取り入れ、基礎感覚を覚醒させ体幹を鍛えていくことにした。まずは個々の取組を見守り、友達と一緒に様々な成功体験や失敗体験をくり返しながらかつ活動を進め、挑戦したり困難なことにつまずいたりしても気持ちを切り替えて主体的に取り組む子どもの姿を目指している。

・一人の子どもの姿を通して研究を進めていくことにした。いろいろな事に興味を示し、友達と一緒に楽しみたいという気持ちをもっているが、距離感や関わり方を探りながら接したり、自分の感情をコントロールしたり、身体を意識したりする感覚が弱いA児に視点を置いた。

「ひまわりチャレンジタイム」の計画

子どもの姿 ⇒ 課題 ⇒ 振り返り・評価 ⇒ 計画

☆子どもにつけたい力

・感じる力・・・身の周りの人・出来事・事象に興味をもって関わる中で、その不思議さやおもしろさなどを感ぜられるようになる。

・動く力・・・自分のやりたい事を見つけ、身体を自由にコントロールして遊んだり、場面に応じて行動を変えたりしていくことができるようになる。

・考える力・・・やりたいことを実現するために、必要な物を集めたり、方法を考えたりしながらどうすればいいかを考えようとする。

・やりぬく力・・・困難や失敗があっても、諦めずに「やってみよう」「やればできる」という気持ちでくり返し取り組み、やり遂げようとする。

・人と関わる力・・・言葉や表情など様々な方法で、互いの思いや考えを伝え合いながら、いろいろな人と関わりよい関係を築くようになる。

運動遊び年間指導計画 (※一部抜粋)

4月	5月	6月	9月
・いろいろな感触を楽しむ ・走る 止まる	・起き上がる ・ケンケンパ	・線の上を歩く ・同じ動作をする	・バルーン遊び ・競争(運動会に向けて)

A児の活動

保育者の思い・援助

実践事例① (4月下旬～6月上旬)

「先生！今日も裸足！！」
様々な感覚遊びに加えてダイナミックに体を動かしながら楽しむ遊びを意図的に取り入れていくようにした。

A児の実態

- ・友達がしていることは、自分もやってみようとするが、初めての事には抵抗を示す。特に感触を試しながら活動を進めている。
- ・土踏まずがない。
- ・活動の切り替えが難しい。

ねらい

- ・裸足になって、足の裏の感触を知る
- ・バランス力を養う
- ・気持ちを切り替え次の活動へ参加する

「砂場遊びをしよう」と裸足になり園庭へ出ていく友達の姿を見て自分も裸足になったが、砂の感触が嫌で友達の足を踏んで歩いたり、台の上にとったりして遊んでいた。



砂場に水を運び、泥んこ遊びをみんなで楽しんだ。

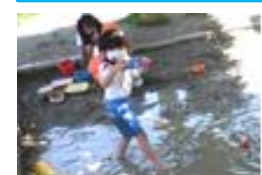
A児が自ら裸足になろうと思ったタイミングに「裸足ならではの遊び」を取り入れるようにした。

抵抗がなくなってきたタイミングに室内での活動の中にも裸足活動を取り入れていった。



また、片付けをするという言葉や動作だけではなく「足を洗う」「靴下を履く」という動作が加わることで次の活動への切り替えが生まれるように毎日同じ言葉をかけるようにした。

水遊びが大好きなA児は喜んで参加し、初めは抵抗を感じながら歩いていたが砂場に水を運ぶことに夢中になり、いつの間にか自然に走り、泥んこの中にも入っていった。



実践事例② (6月中旬)

「今日のひまわりチャレンジタイムは？」
毎日の保育の中で「ひまわりチャレンジタイム」を行い、いろいろな運動遊びを取り入れていった。

A児の実態

- ・友達と一緒に過ごすことを楽しめるようになってきた。
- ・身体を動かす事を楽しむようになったが、体に負荷がかかる・力を入れられないとできない動きになるとやろうとしない。側で友達の様子を見る日が続いていた。

ねらい

- ・やってみようという気持ちをもつ
- ・体幹を鍛える



両足でジャンプは楽しんで参加していたが、プランク(腕で身体を支える動き)を始めると参加しようせず、友達の行っている周りをぐるぐると歩き始める。

友達と一緒に、同じ場で同じ事をするのが楽しいと感じられるようになったA児の気持ちを受け止め、持続時間を調節しながら活動に集中できるようにした。

「今日のひまわりチャレンジタイムは真似っこポーズ」
始めは保育者の動きの真似をすることからスタートし「次はぼくがする！」と子どもからの声を受けて友達の動きの真似をした。

A児が「やってみよう」という気持ちになるタイミング・きっかけ作りをしながら見守った。



「ぼくもする！」と手を挙げ自分の動きを友達が真似をしてくれることや、友達の真似をすることを楽しんでいった。いつもならやろうとしない足上げてのバランスにも取り組み、この日より苦手としていた動きにも参加するようになる。

クラスの中でのA児の育ち

裸足でペットボトルのキャップを集めて遊んでいる



自分のやりたい遊びを見つけて存分に楽しもうという姿が見られる。友達存在が気になる姿も見られる。

しかし、自分の遊びに夢中になっているときは、周りの事は全く気にならない。友達に触られることも嫌がる。

存分に遊び、満足するとその場から離れ他の遊びを探し始める。

友達がA児の遊びに興味を示した

一つの遊びを見つけると毎日朝一番はこれをして・・・と生活の流れが決まるA児。また、自分の決めたものを他の友達が使おうとも嫌がる



「何してるの?」「いろんな色があるから分けたいやん」友達の声に興味を示し一緒にケースを探して色別に分け始める。



自分の遊びに友達が加わり、相談しながら遊びを展開した。

運動会でかっこいい年長児に刺激を受け、応援しながらルールを覚え「僕もやりたい!」と仲間に入る(学習意欲)

年長へ繋いでいく
⇒ 就学に向けて...

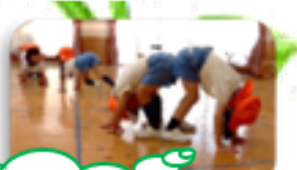
年長児と一緒にリレー遊び



運動会での達成感



友達と力を気持ちに合わせて...



次の活動への意欲

順に友達の足の間をジャンプで進む

力の加減や距離感がわからず友達の上に覆いかぶさったり、押してしまったりしていたA児。しかし友達の足を踏まないように力を入れて慎重に進むことができるようになった。



「少し難しいけどやってみたらできたよ」(自尊心)

友達と協力して

友達も信じて応援 先生のお山座りをして聞くしていた。

友達と一緒に 充実感・満足感

自分から 困難を乗り越える

お山座りが崩れてきた...でもみんなと一緒に座ってお話が聞けるようになってきたよ(規範意識)

心の安定・信頼関係

自分で 興味・関心

自分から 試行錯誤

(まとめ)

・遊びを通して様々な運動刺激を受けることで、体の動かし方やコントロールの仕方を身に付け、自ら体を動かそうとする意欲を育みながら柔軟性や瞬発力、バランス感覚などを養い、身体感覚を高めることができた。

・友達と一緒に繰り返し運動遊びを楽しむ中で、A児を取り巻くクラス全体の信頼関係が生まれ、コミュニケーション力や社会性を身に付けていく力の構築(規範意識の育み)にも繋がった。また、友達の存在に気づき、一緒にするにはどうすればいいかを考える姿や「やってみよう」「できた」という満足感を味わっている姿が生まれ、自己肯定感の高まり(自尊感情の育み)を感じた。

・様々な感覚統合遊びを通して、体幹が鍛えられ、体幹が鍛えられることにより「怪我をしにくくなる」「運動能力が向上する」「バランス感覚が養われる」「自己抑制ができる」「やればできる」という自信がついてきたように思う。(学習意欲の育み)さらに、継続していく必要性を感じている。

(成果)

・様々な感覚(統合)の発達を意識しながら活動を進めてきた中、自分の感情をコントロールするのが苦手だったA児が、順番を待ったり同じ姿勢で椅子に座ることができたり、友達と一緒に同じ用具が使えるなど、日常生活の中で、自分ができることが増えてきている。

・毎日の「ひまわりチャレンジタイム」を通して、「腕のここの部分が強くなった」と体のいろいろな部分を指さしながら話をしている子どもの姿から、自分の身体・友達の身体への興味・関心の高まりが感じられる。

・ボディーイメージの形成や楽しんで取り組もうとする心の育ちを見守りながら実践を進めていく中、「子どもを肯定的に見る」「活動の意味を知る」「発達する姿を捉える」「集団と個の関係を捉える」「保育を見直す」という視点を意識することにより、子ども理解を深めることができた。

(課題)

・子どもは、多様な体験を積み重ねながら様々なことを学び成長している。学びの芽を育むには一人一人が体験したり感じたりしていることを保育者が理解し次にどう深まっていくかを捉えていく必要がある。

・保育者の見守りや言葉掛け、イメージが実現していけるような環境構成、「できた」という結果だけではなく子どもが考え合う時間や過程を大切にしていきたい。また、多面的な子ども理解の方法も探りながら心も体も健やかに成長していける活動を多く取り入れていきたい。